



白神山地は雨のためここまでしか！ 世界でも珍しい千里浜なぎさドライブウェイ 能登21日豪雨の前日の不吉な雲



全焼した朝市の焼け跡も倒れたビルもそのまま！20日に見た仮設住宅も翌日には大変なことに！ 勝山市にある世界有数の規模の博物館



世界でもこれほどまでに大規模な柱状節理は珍しく「世界三大奇勝」

★今日から10月です！★
暑かった夏も終わり、朝夕の気温が下がって来てすっかり秋です。
この時期は日中と朝夕の気温差が大きく、体調を崩しやすくなります。体調管理に十分注意して下さい。
特に受験生は3月4日の高校入試まで150日余り、10月、11月と学力テストや道コンがある入試スケジュールの第二段階です。
その学力A・B・Cや道コンの結果をふまえて、12月、1月、2月の3ヶ月が志望校へ向かっての第三段階、本場の意味での受験勉強です。
したがって入試まではまだまだ時間は十分ありますが、あつという間に時間は過ぎていきます。

以下はAI時代に小中学生はどう生きるの質問に対するAIの解答です。
問題解決能力…AIはデータ分析や反復作業を得意としますが、人間にしかできない創造的な解決策を考える力が求められます。
アートやデザイン…AIにできない分野での創造性を活かす機会が増えています。絵画、音楽、デザインなど、自分の興味を追求することが重要です。
対人スキル…チームでの協力や対話力はますます重要になります。AIが発展しても、人と人とのコミュニケーションは欠かせません。
多様性への理解…グローバル化が進む中で、異なる文化や価値観を理解し、共感する能力が求められます。
AIの影響を考える…AIが社会に与える影響について考え、自分自身の価値観や倫理観を持つことが重要です。
デジタル市民権…SNSやデジタルプラットフォームでの行動が自分や他人にどのような影響を与えるかを理解することが求められます。
変化に対応する力…技術の進化は速いため、新しいスキルを学ぶ意欲と柔軟性が必要です。
生涯学習の意識…学校で学ぶことだけでなく、自分自身で学び続ける姿勢が重要です。
情報リテラシー…インターネット上の情報を正しく評価する能力が求められます。フェイクニュースや偏った情報を見抜く力を育てることが重要です。

まさにAIの解答通りでAIに出来ないことがたくさんあります。みなながらこれから社会に出て行く上で身につけなければならない知識や情報、そしてそれを判断する能力が生きていく力となるのです。
近い将来迎える15の春、18の春に向けていま懸命取り組んでほしいと思います。

道教委「24高校生選抜状況報告書」から
報告書によると、今春の公立高校入試における合格者平均は212.9点でした。昨年の合格者平均点(228.6点)を15点以上下回る結果となりました。
全教科で50点を下回り、理科・社会が昨年引き続き難問であったほか、昨年との比較では国語・英語の難化が目立ちます。
教科別の得点分布を見ると、平均点の低かった社会・理科・英語はいずれも20点〜30点の生徒が最も多く、学力下位の生徒たちに厳しい結果だったことがわかります。
「研究協議会における主な意見」でも、「今後は、思考する時間や記述する時間を考慮し、出題形式や基礎的・基本的な問題を思考力、判断力、表現力等をみる問題のバランスを工夫してほしい(国語)」「特に大問一において、基礎的・基本的な知識及び技能を習得しているかをみる問題の出題内容や出題方法等について、一層工夫してほしい(社会)」と書かれており、しばらくは試行錯誤が続くそうです。
国語
合格者平均点は46.4点(受検者平均点は46.3点)で、前年よりも8点ほど下がり、非常に難しい出題だったと言えます。
数学
合格者平均点は48.8点(受検者平均点は49.0点)と、難易度は昨年とほぼ同程度かやや易化したと言えます。昨年のように正答率が5%を下回るような極端な難問はありませんでした。ここ数年の出題傾向を概ね踏襲しており、各大問とも一つのテーマに対して多角的に思考・判断し、解答として論理的に表現することが求められました。
英語
合格者平均点は41.0点(受検者平均点は41.1点)で、前年よりも10点ほど下がりました。小問数34問のうち、正答率が20%以下の問題は13問あり、非常に難しい出題となりました。

社会
合格者平均点は38.2点(受検者平均点は38.3点)で、前年の41.0点より更に下がりました。正答率が80%を越えた問題が1問もなく、最も高いもので79.7%、60%を超えた問題が33問中6問と、非常に難しい出題となりました。文章と資料の量が多く、限られた時間内で必要な情報を読みとって正確に判断し、適切に表現する力が求められました。

38.6点と、前年の35.4点よりやや上がりました。正答率90%台が1問、80%台がななく、70%台が4問と、昨年同様に難しい出題でした。昨年からの内容面、難易度面で大きな変わりがなく2年連続で平均点が40点を下回ったことから、昨年や今年のような出題が続く可能性があります。

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	
				休塾							休塾						スポーツの日	休塾			★学力Bテスト		休塾		休塾						

公立高校入試まで	154
高専入試まで	131

上の写真は休みをもらって10日から23日まで青森↓秋田↓山形↓新潟↓群馬↓長野↓富山↓石川↓福井の9県2500kmを走ってきた時のものです。特に輪島市の状況(震災当時と変わらず)にショックを受けて帰ってきた翌日の豪雨、何て言ってもいいのかな言葉がありません。
恐竜博物館は素晴らしい所です。ぜひ一度！

「スマホは学習に使っても学力が伸び悩む」

脳トレ監修者の警鐘



スマートフォンやタブレット端末を長時間使う子どもは、家庭学習をいくら頑張っても学力が伸び悩む。開いているのが学習用のアプリであっても――。東北大加齢医学研究所の川島隆太教授（脳科学）が、昨年末に出版した著書「本を読むだけで脳は若返る」でそんな報告をして

いる。子どもの努力を水の泡にしないためにはどうすればいいのか。川島教授は「まずはリスクを知って」と訴える。

脳がマッサージを受けている時の状態に

そもそも、人が何かを学んだり創造したりしているとき、脳内では「思考の脳」と呼ばれる「背外側前頭前野（はいがいそくぜんとうぜんや）」が働くことが知られている。川島教授は携帯ゲーム機「ニンテンドーDS」のソフトで、2005年に発売された「脳を鍛える大人のDSトレーニング」（脳トレ）の監修者。デジタル機器の小さい画面で映像や画像を見ると、この背外側前頭前野の活動が抑制されることをソフトの開発段階から実験で確認していた。

その後、スマホの使用に伴う脳の活動も調べたところ、特に動画を見ているときは一点を見つめ、ぼうっとしているときよりも背外側前頭前野の活動が抑えられていることが分かった。

実は、マッサージを受けている人の脳でも似たような現象がみられるという。「マッサージを受けると心も体もリラックスして気持ちよくなりますが、そのときに背外側前頭前野の活動が低下します。スマホなどを見ているときも脳がリラックスした状態になり、活動が低下すると考えられます」

スマホ・タブレットが学力伸び悩みの原因

東北大加齢医学研究所は、学術協定を結ぶ仙台市教育委員会から同市内の公立小中学校に通う全児童・生徒7万人以上の学力や生活習慣に関するデータの提供を受けている。18年度に、小学5年生～中学3年生（約3万6000人）を対象としたスマホ・タブレットに関する研究に乗り出したところ、驚くべきことが判明した。

スマホ・タブレットの使用時間が1日1時間未満の子どもたちの学力（国語・算数・理科・社会の平均偏差値）は家庭学習を全くしないグループでも全体の平均に届いていたのに、使用時間が1時間以上の子供たちは家庭学習を全くしないグループでは平均に届かず、1日1～2時間しているグループでようやく平均に届いたのだ。

「毎日1～2時間以上勉強する子はかなり真面目だと思われませんが、スマホ・タブレットを長時間使うと学習効果がうまく表れませんでした」

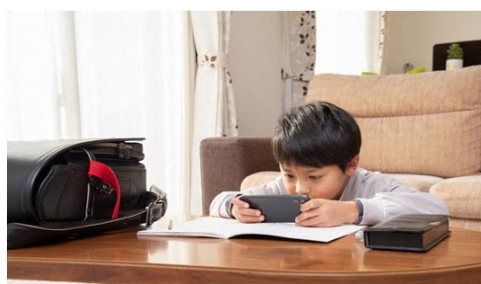
また、対象者のその後も確認したところ、長時間使用を続けた子どもたちは学力が低い状態を維持していたほか、途中で長時間使用を始めた子どもたちも翌年から極端に学力が下がっていた。逆に、長時間使用していた子どもたちが途中で使用時間を短くしたところ、翌年から学力は向上した。

「要するに、スマホ・タブレットの長時間使用は、学力の伸び悩みの直接的な原因になっているのです」

家庭学習3時間以上でも平均に届かず

ここで、一つの疑問が生じる。スマホ・タブレットで学習目的のアプリを使うとどうなるのか、という点だ。これについても小学3年生～中学3年生（約1万3000人）を対象に調査したところ、使用時間が長くなると偏差値が下がる傾向が見られた。しかも、使用時間が2時間以上になると、家庭学習を3時間以上していても全体の平均に届かなかった。

一方で、使用時間を1時間以内に抑えている子どもたちは全く使わない子どもたちよりも学力が高いことも分かった。「理由ははっきりしませんが、1時間以内に抑えられる子どもは自制心があり、勉強にも効率的に取り組んでいるのかもしれない」



家庭学習中にスマートフォンやタブレット端末を使い、勉強に集中できない子どもも少なくない

脳の一部で発達が止まってしまう

学力が伸び悩む理由として、背外側前頭前野の活動が抑制されること以外にも考えられることがある。スマホを持つ中学生（約2万5000人）を対象にした調査では、約3分の2が家庭学習中にスマホで音楽を聴いていたほか、半数弱がメッセージのやりとりをしたり動画を見たりして勉強に集中できていない実態が明らかになった。

さらに、仙台市に住む5～18歳の計224人の脳をMRI（磁気共鳴画像化装置）で計測し、3年後にも同様に調べるなどした結果、スマホ・タブレットを使ったインターネット接続を習慣化させると、脳の一部の発達が止まってしまうという衝撃的なことも判明した。

「生物学的なメカニズムは分かっていませんが、スマホ・タブレットを長時間使うことで、家族の会話といった発達に必要なコミュニケーションの時間が短くなってしまふことなどが考えられます」

家では「デジタルデトックス」を

国が進める「GIGAスクール構想」で、全国の小中学生には1人1台のデジタル端末が配られている。川島教授は「子どもたちの興味・関心を引き出すためにICT（情報通信技術）の利用は効果的かもしれませんが、脳科学の観点ではデメリットもある」として、持ち帰りはさせずに家庭では端末から距離を置く「デジタルデトックス」をするよう呼びかける。

親は家族のだんらん中にスマホ・タブレットを使わず、子どもとの会話を大切にしたい。小学生の孫が自宅に遊びに来た際はデジタルデトックスを実践しているという川島教授は力を込める。「子どもにスマホ・タブレットを渡してしまえば、そこで会話が止まってしまう。子どもは段ボール箱を一つ与えるだけで想像力を発揮し、伸び伸びと遊ぶことができます。親が子どもとしっかり向き合い、子どもが興味を持つことに一緒に取り組んであげることが重要です」【宮川佐知子】 毎日新聞 2024/4/26

ビデオ・カセットの記録、消滅の危機 ユネスコ警鐘「25年までに」



東京光音では、様々なタイプの磁気テープに対応する機器を使い、電子データ化の作業が進められていた2024年2月7日

ひと昔前までビデオやカセットなどの磁気テープは、記録媒体の主役だった。日常生活を映した家庭にある膨大なホームムービーにとどまらず、希少な文化的な記録も残されている。ところが再生機器が消えていき、テープの劣化も進むなか、こうした身近な「遺産」が消滅の危機に瀕（ひん）している。

国連教育科学文化機関（ユネスコ）と国際音声・視聴覚アーカイブ協会（IASA）は2019年7月に「マグネティック・テープ・アラート」というプロジェクトを始めた。磁気テープは、25年までにデジタルデータ化されなければ大半が永遠に失われかねないと警鐘を鳴らし、世界での調査や対応を求め始めた。

8ミリなど古い時代から使われてきたフィルムは適切に保存すれば長持ちして再生も可能だ。対して、フィルムからデジタルへの移行期にあたる1970年代から2000年代にかけて普及した磁気テープは、すでに再生機器の製造や保守サービスが終了しており、やがて視聴できなくなる。テープそのものの劣化も危惧され、劣化が進むほどデジタル化は難しくなる。

国立映画アーカイブの富田美香・主任研究員は「磁気テープが広く使われたのは、家庭用ビデオが普及し、映像が手軽で身近になった時代」と話す。だからこそ、歌舞伎の練習風景のような伝統芸能、祭りなどの民俗や伝統工芸の記録、歴史研究者が聞きとったオーラルヒストリー、さらには工場の風景や線路・道路の建設といった産業の記録など、様々な機関が多様な題材を磁気テープに残してきた。

磁気テープに保存されてきたのは、身近な生活の記録だけでなく、もう再現できない文化的な記録も。視聴覚資料をデジタル化する会社「東京光音」には、博物館などからの依頼が相次いでいるそうです。上田真由美

朝日新聞デジタル 2024年7月17日